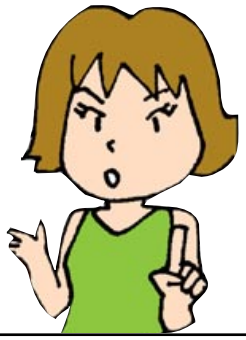
四輪車の免許を持つことには、プラス、マイナスの両面がある



四輪車の運転ができると、友達同士でドライブに出かけたり、家族を病院へ送り届けたりと、いろいろ便利。その反面、さまざまな責任もともなう、ということを忘れないで。

まとめクイズ

Yes、Noのどちらかを選んでください

Q1. 同乗者を乗せて四輪車を運転中、ガードレールにぶつかるなどして、単独で事故を起こし、同乗者にケガをさせたら、運転者は加害者としての責任を問われる。 Yes No

Q2. 四輪車は大きく、また目立つため、自転車や歩行者のほうがよけてくれる。だから、自転車や歩行者の動きを気にする必要はない。 Yes No

Q3. 車を持つと、自賠責保険料や駐車場代、定期点検費用など、ガソリン代以外の費用が発生する。 Yes No

Q4. 各年齢層ごとの普通免許保有者数と事故件数の比率を見ると、全年齢層で18歳が一番高い。 Yes No

→解答は次ページに！

まとめクイズの解答と解説

Q1. Yes

車を運転することは自分の命だけでなく同乗者の命も預かることになります。普通、事故は車と車、車と歩行者というように第1当事者（加害者）と第2当事者（被害者）がいて、双方に責任が発生しますが、この問題のようなケースでは衝突の相手がガードレールなので、運転者だけが第1当事者として責任を問われます。

Q2. No

自転車や歩行者は、車のほうが自分に気づき、注意してくれると思っているかもしれません。車は車体が大きくスピードも出るため、いったん自転車や歩行者に接触すると大きな事故になる可能性があります。

Q3. Yes

車を買うための費用だけでなく、その他の維持費もかかります。

- 万一の事故に備えた自動車保険（自賠責保険、任意保険）
- 車の性能を維持するための定期点検・整備費、車検
- 自動車税
- 駐車場代やガソリン代　など

Q4. Yes

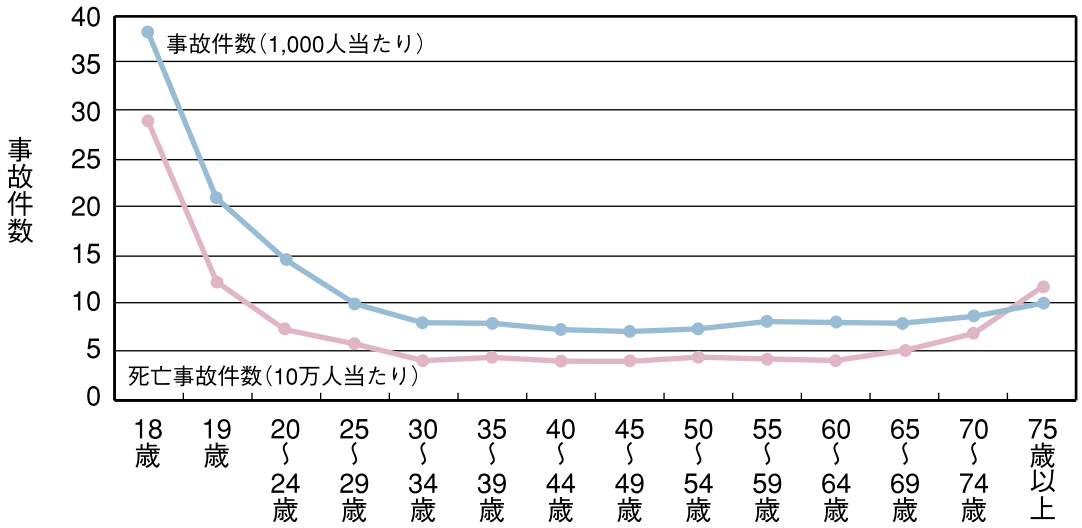
18歳は普通免許取得年齢に達したばかりのため、事故による負傷者、死傷者数は他の年齢層（成人や高齢者層）と比較すると少なくなっています。しかし、若者ドライバーの事故発生率（各年齢層の免許保有者数あたり事故件数、死傷者数）は群を抜いて高くなっています。（コラム1）

コラム 1

18歳は四輪車の事故を起こしやすいとき

普通免許を取得した18歳の人たちが交通事故を起こした比率を、その他の年代と比べて見たのが下のグラフです。各年齢層の免許保有者1,000人当たりの事故件数（死亡事故は10万人当たり）の負傷者数、死者数を他の年齢と比べると群を抜いて高くなっています。

グラフ1　年齢層別四輪免許保有者に対する
四輪運転者の事故、死亡事故件数（第1当事者）の比率



*第1当事者：加害者

（財）交通事故総合分析センター　平成20年

●免許を持つことは楽しいことばかりではない

一番大きな変化は人の命に責任を持つことです。

事故を起こしたら 刑事・民事・行政責任を問われる

18歳の誕生日を迎えると、普通免許が取れるようになります。二輪免許を取ったとき以上に、一人前の大人になったような気分になるでしょう。

車が運転できれば行動範囲が広がるし、友達と一緒にいつでもでかけられるなど自由が広がります。車のある新しい生活に楽しい夢や期待を持つのは当たり前のことです。

しかし、免許を取って車を運転するのは、楽しいことばかりではありません。

運転するときには道路交通法に従う義務があり、違反すると罰せられます。事故を起こすと、刑事、民事、行政責任等が問われます。未成年であっても賠償金が請求されます。就きたい職業に就けなくなることもあります。

車の維持費を計算してみよう

車を持てば自賠責保険、任意保険に加入したり、ガソリン代や駐車場代、点検・修理代など、経済的な負担もかかってきます。免許取得によって、得られるものは多いのですが、失うものもあることをよく理解しておきましょう。

道路交通法では、運転者は事故を起こさない、安全運転をすることが求められます。自分の命だけでなく、一緒に道路を使う人（歩行者と自転車、二輪車、四輪車の運転者と同乗者）の命を守る義務も負うことを覚えておきましょう。

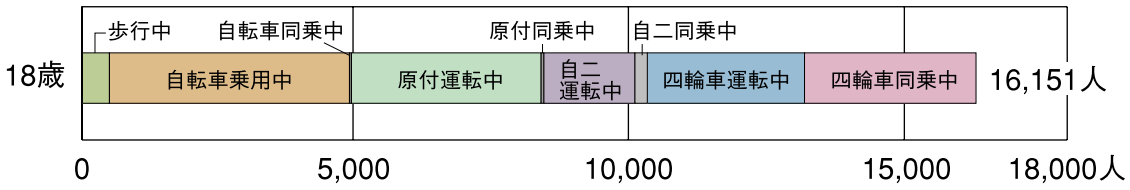
運転は楽しいけれど、責任も伴う

コラム 2

同乗者をケガをさせたら、加害者になる

下のグラフは18歳で、どんな乗り物に乗っているときに事故が多いかを示しています。四輪車に乗っているときの事故が一番多く、その半分が四輪車同乗中の事故です。事故の責任というと、みなさんは四輪車の事故の相手になる歩行者や自転車、二輪車、四輪車を責任の対象として思い浮かべませんか。クイズにもありましたが、同乗者をケガさせたときも、運転者は同乗者に対して加害者として責任をとらなくてはいけません。このことを忘れないでください。

グラフ2　18歳の状態別死傷者数



（財）交通事故総合分析センター　平成20年

調べてみよう 考えてみよう

新聞や本などの資料、インターネットなどを使って、調べて考えてみましょう

- **あなたは四輪車の免許を取得する予定ですか？取るとしたらいつごろですか？免許を取得するにはどうすればいいのか、調べてみましょう。**

- **家族や周囲の人に普通免許を持っているか、いつ、なぜ取得したのか、たずねてみましょう。**

- **自宅に車がある場合、購入費や維持費にどれくらいかかっているかたずねてみましょう。**

MESSAGE

交通安全教育は日々の生活から

岡村和子　警察庁科学警察研究所交通科学部交通科学第2研究室　主任研究官

日本では、幼い頃からの交通安全教育が、十分になされているとはいえない状況があります。たとえば、高校生に限らず、大人でも、自転車は軽車両として道路交通法が適用されることや、飲酒運転が禁止されていることを知らない、というのが現状です。幼児が親と一緒に歩いて外出する、あるいは親の運転する自動車に乗るといった日常的な体験の中で、歩行者としての、あるいは同乗者としての訓練は始まっているはずなのです。同乗者として、どこの座席に座っていても、その人に合ったシートベルトを着用する習慣が身についていれば、大人になってもその習慣は消えないでしょう。

交通安全教育は日々の交通と接する日常生活の中で、周囲の大人も意識して行っていくべきだと思います。公共交通も交通安全教育の重要な題材です。バスや電車の車内でのマナーの悪い人が、バイクや自動車に乗ったら急に他の歩行者や運転者を思いやる安全運転をするようになるとは思えません。